

社会福祉法人 まほろば 平成31年度 事業計画



指定介護老人福祉施設

ユニット型指定介護老人福祉施設

指定短期入所生活介護

指定通所介護

指定居宅介護支援事業所

地域型保育事業（事業所内保育事業）

指定介護老人福祉施設

指定短期入所生活介護

特別養護老人ホーム まほろばの里たいわ

特別養護老人ホーム まほろばの里たいわ

ショートステイ まほろばの里たいわ

デイサービスセンターまほろばの里たいわ

まほろばの里たいわ居宅介護支援事業所

たいわっこ保育園

特別養護老人ホーム まほろばの里向山

特別養護老人ホーム まほろばの里向山

平成31年度事業計画 目次

法人理念・運営理念・平成31年度運営方針	1
特別養護老人ホームまほろばの里たいわ事業計画	4
ショートステイまほろばの里たいわ事業計画	6
デイサービスセンターまほろばの里たいわ事業計画	7
まほろばの里たいわ居宅介護支援事業所事業計画	9
たいわっこ保育園事業計画	10
【各委員会及び係 年間計画】	
より良い暮らし委員会・身体拘束・虐待防止委員会・事故防止対策委員会	11
苦情解決委員会・防災対策委員会・感染（褥瘡）予防対策委員会	12
研修委員会	13
食事栄養委員会	14
地域介護育成チーム・喀痰吸引等業務検討委員会	15
福祉用具管理係	16
特別養護老人ホームまほろばの里向山事業計画	17
【各委員会及び係 年間計画】	
ユニットリーダー会議・事故防止対策委員会・苦情解決委員会	18
防災対策委員会・感染予防対策委員会	19
給食委員会・もっと生活向上委員会	20
デジタルクリエイション委員会	21
褥瘡対策委員会	22

○ 法人理念と行動指針

社会福祉法人まほろばは、利用者・地域そして職員に喜ばれる運営を行い、社会に貢献できる法人を目指していきます。このことを具現化するために、以下に掲げる理念と行動指針を共有します。

1. 法人の基本理念

人間尊重の理念のもと、利用者の満足を第一とします。

2. 理念を具現化するための行動指針

「風通しが良いか」「コミュニケーションがとれているか」「同じベクトルを向いているか」を常にチェックして、何事においても「報告・連絡・相談」を徹底して取り組みます。

3. 職場の努力目標

- ・ 迅速に報告ができる職場づくり
- ・ 緊密に連絡を取り合う体制づくり
- ・ なんでも相談できる環境づくり

○ 平成31年度運営方針

～ いつでも誰でも集える暮らせる 小さな街を目指して ～

下記7項目に重点を置き、平成31年度の法人運営を行います。

1. 【サービスの質の向上】

- ① 専門職集団としての質の向上
- ② 根拠・目的を明確にした質の高いサービスの提供
- ③ 自己研鑽ができる環境づくり
- ④ 日々のサービスの振り返り、自己点検体制の構築
- ⑤ 報告・連絡・相談の徹底

2. 【家族との信頼関係の強化】

- ① 家族とのコミュニケーションの充実
- ② 家族との情報交換
- ③ 家族も一緒に参加できる行事の企画・実施
- ④ 家族も過ごしやすい生活環境づくり

3. 【働きやすい職場環境づくり】

- ① いつでも誰でも相談できる環境作り
- ② 各職種間の連携強化
- ③ 職員が楽しく働ける環境作り（福利厚生の実施 親睦会の活用等）
- ④ 施設間の職員交流
- ⑤ キャリアアップの仕組みづくり（働きがいのある職場づくり）

4. 【人材創出・育成】

- ① 人材育成（内部研修 外部研修への積極的参加）
- ② 人材創出（実習の受け入れ、地域住民の働く場所として）
- ③ 資格取得講座の実施（介護職員初任者研修・実務者研修）
- ④ 仙台保健福祉専門学校との連携（実習の受け入れ）
- ⑤ 施設内事例発表会の実施及び宮城県老人福祉施設協議会主催の事例発表会への参加
- ⑥ 施設間の職員研修（たいわ、向山での体験実習、合同職員研修等）

5. 【地域連携】

- ① 地域に向けた介護サービスに関する情報提供（研修会等の実施）
- ② 他事業所との連携
- ③ 小中学校の職場体験受け入れ
- ④ ボランティア育成及び受け入れ
- ⑤ 地域イベントへの積極的参加（地域の夏祭等への参加）
- ⑥ 行政機関や地域の社会福祉協議会等との連携強化
- ⑦ 専門学校や地元中学・高等学校等との連携

6. 【安全対策】

- ① 防災対策の強化（備蓄食糧の整備 避難訓練の実施）
- ② 事故対策の強化（事故対策委員会を中心とした介護事故防止対策の強化）
- ③ 感染対策の強化（感染予防対策委員会を中心とし、感染対策の徹底）
- ④ 苦情解決体制の強化（苦情解決委員会を中心とした、苦情解決体制強化及びサービス向上）
- ⑤ 法令順守の徹底（規程・規則、マニュアル、研修制度の見直し、提供するサービスの見直し）

7. 【安定した施設運営】

- ① 特別養護老人ホーム（まほろばの里たいわ）稼働率98%以上の確保
- ② 短期入所生活介護（まほろばの里たいわ）稼働率85%以上の確保
- ③ 通所介護（まほろばの里たいわ）稼働率70%以上の確保
- ④ 居宅介護支援事業所実績数30件以上の確保
- ⑤ たいわっこ保育園利用率 95%以上の確保
- ⑥ 特別養護老人ホーム（まほろばの里向山）稼働率98%以上の確保
- ⑦ 短期入所生活介護（まほろばの里向山）稼働率85%以上の確保

特別養護老人ホーム まほろばの里たいわ

平成31年度事業計画

【平成31年度目標】

① 入居稼働率98%以上の確保

ユニット型個室稼働率99%、多床室98%の稼働率を目指します。
上記達成のために、空床期間を1か月以内とし、空床から新規入居までの期間を短縮するよう努めます。
そのためにも、常日頃の関係事業所との連絡調整を行い、スムーズなベッドコントロールを行います。
また、近隣地域の居宅介護支援事業所、介護老人保健施設、医療機関等の関係事業所や行政機関との連絡調整を行い、待機者数の増加に努めていきます。

② 入居者の生活の質向上に向けた取り組み

～ 入居者一人一人の生活に目を向け、その方々が望む生活を送ることが
できるようなケアを提供します ～

- i ユニットケアの推進（入居者が望む生活を送るためのケアの提供）
- ii イベント・外出・施設外の活動・保育園児との交流等入居者が楽しめる生活づくり
- iii 町内会活動（ユニット間の連携）の強化
- iv 24時間シートの活用

入居者の「生活」に目を向け、食事・排泄・入浴・生活環境を一人一人の生活パターンに合わせたケアの提供を行います。
職員の経験年数、能力に合わせた研修体制の強化、外部研修や資格取得支援を行うことで、ケアの質を向上させ、入居者にとって「居心地の良い空間づくり」を提供できるサービスを実施します。
また、他職種連携に力を入れ、様々な専門職の知識、技能を生かしたケアサービスの提供に努めていきます。

③ 家族との信頼関係の強化

昨年度に引続き、入居者ご家族とのコミュニケーションを重要視し、入居者はもちろんのこと、ご家族にとっても「居心地の良い空間」づくりに努めていきます。ご家族とのコミュニケーションを図ることで、風通しの良い雰囲気づくり、信頼関係の構築に繋げ、より良いサービスの提供に努めていきます。

④ 情報共有の徹底

サービスの質を確保するため、ユニット職員間、介護、リハビリ、ケアマネ、相談員、看護師、事務職との情報共有を徹底していきます。
各職種の役割、業務内容の明確化を行い、入居者・家族・地域の方々からの要望、希望等の要件に的確かつスピーディーに担当者へ繋ぐことができ、入居者・ご家族・地域から信頼される施設づくりを目指します。

⑤ 職員一人ひとりのサービスの質の向上

サービスの質の向上のため、「介護プロフェッショナルキャリア段位制度」を導入し、経験年数や職責に応じて求められる役割を「見える化」することにより、職員一人ひとりの課題を明確にします。職員の課題に応じた研修の実施やOJTによる指導を行い、一人ひとりのサービスの質の向上に努めていきます。

【各ユニットの目標】

- | | |
|-----------|---|
| あんずユニット | <ul style="list-style-type: none">・ 入居者との関わりの時間を作る工夫をしていく・ 環境整備に力を入れていく |
| かりんユニット | <ul style="list-style-type: none">・ 情報の共有を図る・ 入居者、職員共に健康第一 <毎日楽しく、元気よく> |
| すももユニット | <ul style="list-style-type: none">・ チームワーク
～1日1日を大切に、より良い1日にするためには～ |
| すぐりユニット | <ul style="list-style-type: none">・ 気遣い・心づかいができる |
| くるみユニット | <ul style="list-style-type: none">・ 自分らしく意欲を持って生活を送れるように支援する |
| なつめユニット | <ul style="list-style-type: none">・ ユニットケアの実施（5つの欲求を満たし、その人らしい暮らしを提供）・ チームケアの徹底・ 入居者の健康と安全、清潔な生活空間の提供、丁寧なケアの実践 |
| すみれユニット | <ul style="list-style-type: none">・ ユニット職員一人ひとりが思いやりの気持ちを持ち、働きやすい環境を作る・ 入居者一人ひとりに合わせた行事を御家族と一緒に企画し、御家族も交えた活動を実践していく・ 入居者だけではなく、御家族とも関りを深く持ち、親密な関係を築き、情報交換を行う |
| りんどうユニット | 「職員間の報告・連絡・相談を徹底し、入居者にとって過しやすい環境を整える」 <ul style="list-style-type: none">・ 入居者との関わりの時間を持ち、信頼関係の構築と穏やかに過ごしやすい環境を作る・ 職員が連帯し、ユニットケアに取り組む |
| すずらんユニット | 「個人のできることを増やしていく」
入居者の生活の中でできる（やりたい）活動を増やし、支援していく
職員は様々な事に挑戦、取り組みスキルアップを図る |
| かたくりユニット | <ul style="list-style-type: none">・ ケアへの自覚と責任を持つ・ ケアの統一・ 職員同士の活発な意見交換 |
| リハビリ・栄養部門 | 「利用者の身体機能・心身機能・認知機能・社会機能に各々の専門性を通してアプローチし、健康で豊かな生活が送れるよう支援します」

① 活動提供 <ul style="list-style-type: none">・ 集団リハビリ活動の充実化と個別リハビリの強化・ 各勉強会やイベント企画の実施
② 誤嚥性肺炎予防のための取り組み

③ 専門性のスキルアップ <ul style="list-style-type: none">・ 外部研修の参加・ 事例研究の取り組み |

ショートステイ まほろばの里たいわ 平成31年度事業計画

【平成31年度目標】

① 入居稼働率平均85%以上を確保する。

- ・ 居宅介護支援事業所との情報交換を綿密に行い、ショートステイの空床情報等を居宅介護支援事業所ケアマネに公開して行きます。
- ・ 生活環境を見直しし、利用者に「また利用したい」と感じてもらえるようなサービスの提供に努めます。
- ・ 迅速・適切な対応を行い、御家族やケアマネからより厚い信頼を寄せて頂けるように努めます。

② 長期入所の申し込みに合わせて、短期入所のニーズを把握しながらサービス利用に繋げていく。

長期入所待機者の受け皿としての機能を高めるため、退院後の生活の場としてのニーズを掘り下げていきます。具体的には、居宅介護支援事業所ケアマネや御家族へ、入院後の在宅復帰が難しくなることが予想される場合には、早めにショートステイの予約をすることで、退院後の生活の場を確保しやすくなることの、情報提供や提案を行い、利用者確保に努めていきます。

また、長期入所の入居相談時には、ご本人の状態を把握したうえで、ショートステイやデイサービス等の在宅サービスの提案も行い、稼働率向上に繋げていきます。

③ 「おもてなし」 目配り・気配り・心配り

1 気持ちよく迎える

- ・ 居室はもちろん、リビング、トイレの清掃を徹底し、常に清潔な環境を提供します
- ・ 挨拶をしっかりと、元気に丁寧にお迎えします
- ・ 「どうしたらその方に喜んでいただけるか、満足感を感じて頂けるか」と常にサービスの質を振り返り、向上させていきます

2 気持ちよく帰っていただく

- ・ 「どうもありがとう」が聞ける、「また来たい」と感じてもらえるよう、記憶に残るサービスを提供します
- ・ お預かりした荷物は責任を持ってお返しし、安心と信頼を提供します

デイサービスセンター まほろばの里たいわ

平成31年度事業計画

□ 平成31年度稼働目標70%以上を目指します。

□ 利用者確保に向けた取り組み

① 活動内容の選択・参加型レクリエーションシステムの実施

- ・ 週替わりでレクリエーションを提供し、様々は活動へ参加して頂けるように職員間の連携を図り、継続性を意識して取り組む。また、職員一人ひとりのスキルの向上のため、取り組みの振り返りを定期的に行っていく。

② デイサービスセンターまほろばの里たいわの特徴を強化する

- ・ 利用者の選択肢の拡大、通所リハビリ終了者の取り込みを行うべく、デイサービスセンターまほろばの里たいわの特徴づけを明確にする。

③ 各居宅介護支援事業所、地域包括支援センターとの連携強化

- ・ 活動の周知として、毎季の広報誌の発行を行う。各居宅介護支援事業所、地域包括支援センターとの連携を通して利用者確保に繋げる。

□ 基礎介護の向上

① 個人の振り返りの実施

個人目標の進捗状況を毎月の会議で確認し、全員の目標達成に向け自らの達成状況を振り返ることで、自分が今後どのように行動すればよいのかを振り返る機会とする。また、全職員が他の職員の目標を把握することで、他職員の目標達成に向けて協力し合える環境を作る。

② 介護技術の再確認・向上を目指す

- ・ 定期的に職員の介護技術の状況を確認していく。
- ・ 各部署と連携し、施設内研修を実施する。
- ・ 送迎事故（転倒事故等を含む）0件を目指します。

③ 基本業務の徹底

- ・ 通常業務スケジュールの確認（排泄ケア・口腔ケアの徹底）
- ・ 役割分担の明確化（業務改善、レイアウト、送迎表、物品、各行事等）
- ・ 外出、買い物などの定番化（要支援の方を中心に生活に密着した自立支援）

④ 気づき・家族連絡の徹底

- ・ 職員間での気づきスキルにはまだ個人差があり、その差が事故につながる可能性もある。その気づきの差を埋めるため、気づいた情報を記録として残し共有していく。また、家族との連絡を密にしていき、利用者の生活全般を支援していく。

□ ショートステイとの連携強化

① 毎月1回ショートステイとの合同ミーティングを実施する。

□ 人間力の向上

① 挨拶、コミュニケーション等、接遇の強化

- ・ ビジネスマナーや一般常識、あいさつの仕方等、一般社会、一般企業において必要と思われる項目に関する研修の実施。

② 考え方・意識の向上

- ・ 「無理・出来ない・ダメ」等のネガティブな意識を撤廃し、「実行するために、達成するためには〇〇が必要」とあくまでも実行、達成を目指す考え方の浸透を図る。
- ・ 半年後、1年後を見据えた物事の考え方、企画力を身につける。

□ 社会資源の活用

① 地域ボランティアの活用

- ・ 現在、地域の民生委員による月1回（第1金曜日）の訪問あり。今後は、社会福祉協議会との連携を図り、新たなボランティアグループの発掘及び「デイサービスセンターまほろばの里たいわ」としてのボランティアグループの構築を行う。

□ 年間行事

4月	お花見外出レク
6月	運動会
7月	夏祭り
9月	敬老会
10月	外出レク 保育園とのハロウィン
12月	クリスマス会
1月	新年会
2月	節分 豆まき

□ 定例行事

- ・ お楽しみ風呂
- ・ まほろばカフェ

まほろばの里たいわ 居宅介護支援事業所 平成31年度事業計画

1 基本方針

要介護者が居宅において日常生活を営むために必要な保健医療サービス、福祉サービスの適切な利用ができるよう、また利用者の心身の状況、その置かれている環境等に応じて、利用者の選択に基づき適切な保健医療サービス、福祉サービスが総合的かつ効果的に提供されるよう、多様な事業者と調整しながら在宅での自立した生活が継続できるよう支援していく。

(1) 信頼を得る

利用者及びその家族とのコミュニケーションを重視し、信頼関係の構築に努める。

医療、福祉サービス事業者との情報共有を密に行い、信頼関係、事業者間の連携の強化に努める。利用者家族や地域住民との交流の機会を作り、コミュニケーションを図ることで信頼関係の構築に努める。

(2) 課題を正確に捉える

アセスメントを正確に行い、利用者及びその家族の抱える課題や問題と向き合う。

(3) 情報提供

介護保険制度や、保健医療サービス、福祉サービスの情報を適切に提供する。

(4) モニタリング

毎月計画的に利用者宅を訪問し、利用者の身体状況、生活環境を把握する。また、利用したサービスの評価と利用状況を確認する。

2 実践目標

○ 利用者確保

- ・ 関係福祉行政機関、地域包括支援センターとの連携強化に努め、事業実績30名以上確保を目標とする。

○ 利用者宅訪問

- ・ 毎月計画的に利用者宅へ訪問し、ケアプラン、利用票の説明及びモニタリングを行う。

○ 保健医療サービス、福祉サービス提供事業者との連携 給付管理

- ・ サービス提供票の作成、配布、サービス内容の調整及び利用者の情報共有を行い、必要に応じてケアプランの見直しを行う。
- ・ サービス提供事業者からサービスの実績報告を受け、内容を確認し給付管理票の作成、国民健康保険団体連合会へ翌月10日までに提出する。

○ 介護支援専門員の資質・専門性の向上

- ・ 専門的な知識・技術を高めるために積極的に研修に参加していく
- ・ 地域包括支援センターと連携し、アドバイスを受けながら困難事例の検討、対応を行っていく。
- ・ 特別養護老人ホームまほろばの里たいわと連携し、研修会を企画、実施し自らの資質向上だけではなく、地域全体の介護力向上に努めていく。

たいわっこ保育園 平成31年度事業計画

【平成31年度保育目標】

子どもの発達についての的確に把握し、発達過程に応じた愛情ある保育をする

- ・ 子どもの一人ひとりの個性を大切にする
- ・ 健康な心と体を育てる
- ・ 安全で安心できる環境をつくる
- ・ 一人ひとりの子供の心身の状態に応じた栄養管理を行う
- ・ いろいろな遊びを通して、簡単なルールを身につける
- ・ 高齢者や地域の人々との触れ合いから、思いやりの気持ちを育てる
- ・ 保護者、家族と密接に連携を図る

- ☆ 心身ともに丈夫なこども
- ☆ ひとの気持ちを大切にできるこども
- ☆ みんなと仲良く遊べるこども
- ☆ 意欲を持つこども

上記を目標に保育計画を立案、実施していきます。また、特別養護老人ホームとも連携し、行事や日常生活内での交流を持って世代間交流を図っていきます。

【たいわっこ保育園年間行事計画】

	行 事
4月	はじめの式（入園・進級式）
5月	サツマイモの苗植え 保育参観
6月	虫歯予防活動
7月	夏祭り 七夕会
9月	敬老会
10月	芋掘り クッキング ハロウィン
12月	クリスマス会
1月	新年会
2月	豆まき会
3月	修了式・お別れ会

※ 7・8月水遊び

※ 毎月（誕生会・身体測定・避難訓練）

※ 年2回 内科検診 年2回 歯科健診

※ みやの森幼稚園との交流会（年2回）

■ 各委員会及び係 年間計画

□ より良い暮らし委員会

【目標】

「ユニットケア」「IT（記録・広報）」「口腔ケア 排泄ケア」の3つの分野から、入居者一人ひとりの生活の質の向上を目標に平成31年度の委員会活動を行っていきます。

より良い暮らしを作るための問題点・解決のための策を3つの分野に分かれて検討し、各担当からそれぞれのアプローチを図ることで、暮らしの充実化を図ります。

【活動内容】

- ① 24時間シートの見直し、内容の充実、記入方法についての研修会実施
- ② 記録方法の統一、研修会の実施
- ③ 布パンツの推進 オムツコストの削減

□ 身体拘束・虐待防止委員会

【目標】

身体拘束・虐待防止に向けた施設内研修を実施し、「グレーゾーン」についての考え方を定着させます。委員会の中で、「グレーゾーン」を基にした話し合いを活発化させ、職員一人ひとりの意識の向上に繋げていきます。

【年間計画】

- 上半期： 委員会内での研修会を実施し、委員会メンバーの共通理解を深めていく
毎月の委員会内で施設内の「グレーゾーン」に対しての情報収集を行い、把握と今後の防止策を検討する
5月に全職員を対象とした「虐待発見チェックリスト」の実施。6月以降はチェックリストを基に話し合いを行い、改善が必要なものについては委員会を中心に改善していく
- 下半期： 上半期の活動を基に課題の整理と対応方法の検討を行い、身体拘束廃止・虐待防止に向けた施設内研修を実施（全職員対象）する
10月に全職員を対象とした「虐待発見チェックリスト」を再度実施
11月以降はチェックリストを基に話し合い、改善が必要なものについては委員会を中心に改善していく

□ 事故防止対策委員会

【目標】

「リスク情報の効率的な共有化」

気づきレポートまとめシートを共有フォルダ内に保管することによって、リスク情報をユニット外からも共有するよう試みているが、効率的に活用するまでには至っていませんでした。平成31年度は、各利用者がどのような事故リスクを抱えているのかを、当該ユニット職員だけではなく、利用者に関わる全職種が把握できるようまとめシートの活用を行います。

また、事故及び気づき発生時に初回報告時の対策、ユニット内で検討した後の追加対応策、その後の結果、検証について曖昧になってしまったため、フローチャートの見直しを行い、事故防止に繋げていきます。

□ 苦情解決委員会

○ 苦情を未然に防ぐ

ユニットや各部署で苦情に発展しそうなケースについて情報共有、今後の対応についての検討を行い、苦情を未然に防ぐよう努めていく。

○ 第三者委員との連携

第三者委員との連携を強化し、第三者委員による苦情解決に関する研修会等を企画し苦情の予防、解決に関する知識を高めていく。

□ 防災対策委員会

【平成31年度年間計画】

	実施事項
4月	普通救急救命講習
5月	コンセント（漏電）点検
6月	水害避難訓練
7月	防災設備点検
8月	防災訓練（夜間想定・法定訓練）
9月	通報訓練
10月	地震避難訓練
11月	コンセント（漏電）点検
12月	不審者対応訓練
1月	災害備蓄品の点検
2月	防災訓練（昼間想定・法定訓練）
3月	防災計画・マニュアルの見直し

□ 感染予防対・褥瘡予防策委員会

【平成31年度目標】

- 1 感染症の発症を最小限にする。万が一発症した場合、その被害を最小限にするために早急の感染対応を実施する。
- 2 職員一人ひとりの感染対策の理解を深める

3 褥瘡の知識を深め、褥瘡を作らないケアをしていく

【行動計画】

- 1 平常時の感染対応を徹底して行う
- 2 感染対応のレベル表の周知徹底を行い、レベル表に基づき行動する
- 3 感染症の怖さを職員一人ひとりが理解し、具体的行動をとれるようにする
- 4 年2回の研修会を実施し、すべての職員が参加し、理解できるようにする
- 5 褥瘡を作らないよう、チームで統一した介護を行っていく
- 6 褥瘡発症時は、初期段階で改善・治癒できるよう対応を行っていく

□ 研修委員会

平成30年度に引き続き、施設内部研修を企画・実施し職員の知識・技術の向上に努めていきます。

【平成31年度年間計画】

	実施事項
4月	記録研修 接遇（コミュニケーション）研修
5月	感染予防対策研修① ターミナルケア研修
6月	介護保険関係（コンプライアンス） ユニットケア研修
7月	事故対策研修① リハビリ研修（移乗・移動）
8月	事例発表
9月	MTS 医療面の基礎知識研修
10月	感染予防対策研修② 口腔ケア研修
11月	褥瘡予防対策 苦情研修（接遇）
12月	身体拘束・プライバシー研修 リハビリ研修（摂食嚥下）
1月	排泄研修 伝達講習
2月	事故対策研修② 伝達講習
3月	認知症研修 伝達講習

上記研修の他に、新人職員同士のコミュニケーションや仕事に慣れることを目的としたプリセプターミーティングを定期的実施します。

□ 食事栄養委員会

【委員会目標】

- I 五感を刺激し、生きる喜びに繋がる食環境及び食の提供
- II 食を通して季節を感じることができる
- III 食品衛生の意識を高め、安全でおいしい食の提供

【行動目標】

- ① 香りや温かさ等を伝え、食欲増進に繋がる提供を行う
- ② 利用者と職員と一緒に料理を考え、作り、食べる楽しみを感じられる工夫をする
- ③ 季節の食材や地域で生産された食材を用いた料理を取り入れる。また、暦に沿った行事食の提供を行う
- ④ 一人ひとりの嗜好や状態に合わせた食事内容・食形態の提供、介助方法の検討や食事の環境づくりを行う
- ⑤ 感染予防委員会と連携し、食卓、キッチン、冷蔵庫、食材保管場所などの食品、衛生管理を行う
- ⑥ 低栄養や糖尿病、食中毒など食に関わる研修会を実施する

【平成31年度行事食】

月	内 容	月	内 容
4月	お花見膳	10月	十三夜 体育の日 保育園：ハロウィンスイーツ
5月	即位の日 端午の節句	11月	文化の日 七五三 勤労感謝の日
6月	初夏メニュー 夏至 運動会メニュー	12月	冬至南瓜 クリスマスメニュー 年越しそば
7月	七夕の節句 土用丑の日 元気祭りメニュー	1月	元日 新年会メニュー 小正月 人日の節句
8月	夏メニュー 月遅れ盆	2月	節分 建国記念日 デイ：バレンタインデースイーツ
9月	敬老会祝膳・重陽の節句・おはぎ（彼岸）・十五夜	3月	上巳の節句 春分の日 デイ：ホワイトデースイーツ

【平成31年度活動計画】

月	内 容	月	内 容
4月	勉強会（摂食嚥下・トロミの濃度等）	10月	握りずし等の実施 コラボ企画実施・報告
5月	勉強会（衛生管理について）	11月	握りずし等の反省 コラボ企画の実施・報告
6月	コラボ企画準備 勉強会（病態栄養）	12月	嗜好調査準備 コラボ企画実施・報告
7月	握りずし計画 準備 コラボ企画の実施・報告	1月	嗜好調査実施 コラボ企画実施・報告
8月	握りずし計画 準備 コラボ企画の実施・報告	2月	嗜好調査まとめ コラボ企画実施・報告
9月	上半期反省 握りずし等の準備 コラボ企画実施 報告	3月	年間目標・活動の反省 新年度目標

□ 地域介護育成チーム

【平成31年度活動目標】

「地域の介護に携わる人材の育成、地域の介護力の向上」

- 介護実習の受け入れ
 - ・ ユニット職員が実習生を指導することで初心に戻り、日々の介護業務の見直しの機会にする
 - ・ 実習指導マニュアルの活用と内容の周知徹底を行う
 - ・ 実習生に「実習後ボランティア活動でまた来たい」「この施設に就職したい」と思ってもらえるような職場環境づくり、実習指導を行う
- 中学生の職場体験受け入れ
 - ・ 職場体験を通して「介護」という職業に興味や関心を持ってもらい、将来の介護人材創出につなげていく
- 総合学習授業の実施
 - ・ 吉岡小学校と連携し、毎年3年生の総合学習の一環として実際に施設へ訪問し高齢者と触れ合う機会をつくる
 - ・ 入居者と地域の小学生が関わる機会をつくり、互いに行き来できる馴染みの関係を築いていく
- ボランティアの育成、受け入れ
 - ・ 傾聴の会ボランティア育成支援を継続して実施していく
 - ・ IT部門と連携し、ボランティアについての周知活動を行っていく
 - ・ 黒川高等学校と連携し、ボランティア育成を行っていく
- IT部門との連携
 - ・ まほろば情報とブログの更新を定期的に行い、施設の活動内容を地域に広めていく
 - ・ 写真や原稿を担当職員と打ち合わせしながら、わかりやすく・楽しいまほろば情報を発行していく
- 訪問販売
 - ・ 衣類や日用品等、普段買い物が難しい方でも施設内で買い物ができるよう、地域の商店と連携し、訪問販売を実施していく

□ 喀痰吸引等業務検討委員会

【平成31年度活動計画】

- ・ 事故防止委員会と連携を図り、経管栄養・喀痰吸引に関するヒヤリハット、事故の検証・再発防止策の検討を委員会でも行う
- ・ 吸引が必要な入居者の状況を定期的に確認、リスト作成・更新を行う
- ・ 吸引器等喀痰吸引、経管栄養に必要な器具の確認及び使用方法、保管・点検方法の周知徹底
- ・ 介護福祉士（医療的ケア修了者）の喀痰吸引等実地研修の実施

□ 福祉用具管理係

【平成31年度活動計画】

- ・ 福祉用具使用状況の確認
- ・ 車椅子点検・清掃確認の継続

【年間計画】

- ・ 年2回以上の使用状況の確認・不足物の把握
- ・ 車椅子点検・清掃実施状況の確認及び清掃の声がけ
- ・ 福祉用具の点検。清掃についての周知

特別養護老人ホーム まほろばの里向山

平成31年度事業計画

① 入居稼働率特別養護老人ホーム98%、短期入所生活介護85%以上の確保

入居基準が要介護3以上、新規施設の増設、医療処置が必要な方の増加等、入居者確保に大きな課題を抱えている現状がありますが、居宅介護支援事業所や病院、介護老人保健施設等関係機関との連絡調整を密に行い、退居から入居までの期間短縮に努めると共に、入居者の健康管理を徹底し、入居者が健康的に過ごせる環境をつくり、稼働率達成を目指します。

② 入居者に対するサービスの質の確保

職員一人ひとりの知識・技術の向上のため、施設内研修や外部研修派遣を積極的に行い、入居者への質の高いサービス提供を目指していきます。

また、委員会等の機会を活用し他職種連携に力を入れ、様々な専門職の知識、技能を活かしたケアサービスの提供に努めます。

③ 家族との信頼関係の構築

入居者ご家族との日々のコミュニケーションを重要視し、入居者はもちろんのこと、ご家族にとっても安心できる施設サービスの提供を目指します。入居者の日々の様子をご家族に伝え、風通しの良い雰囲気づくり、信頼関係の構築に繋げていきます。

④ 地域に根差した施設づくり

近隣の町内会・民生委員・地域包括支援センター・各サービス事業者と身近な関係作りを構築します。施設の機能を活用し、お互いの交流や情報交換の場となるよう地域に提供します。

⑤ 働きやすい職場づくり

- ・職員が働きやすい雰囲気・環境づくりを行い、不安・悩みを解消し、働きやすい職場づくりに努めていきます。
- ・報連相を徹底し、職員が同じ方向性で仕事に取り組めるような環境づくりを行います。
- ・働く喜びを感じ、共に施設の将来を築き上げられるよう、活気のある職場づくりを目指します。

■ 各委員会 年間計画

□ ユニットリーダー会議

【目標】

自分で気づき、自分で考え、自分で行動できる職員を育成し、自らも自己研鑽を積む。

【内容】

- 1 「出来ない、無理」などの否定ではなく、その中で「何が出来る？どうすれば目標に近づける？」と考え方をシフトする。働く職員の中心となり「考えてみよう、一緒に考えよう」と、共に尊重し合い実行する。
- 2 ユニットリーダーから積極的にコミュニケーションを図り、職員が発言・発信しやすく、働きやすい関係性を構築するよう努める。
- 3 ケアに根拠を持ち、介護の基本を忘れない。（基本：尊厳を守る、生活の場所を守る）
- 4 24時間シートを導入・活用し、定期的な見直しと改善を行う。

□ 事故防止対策委員会（事故防止対策・身体拘束・虐待防止）

【目標】

- 1 事故報告書を活用し、検証・振り返りを行うことで、今後想定される事故の予見・対応策の検討、再発防止に努める。
- 2 身体拘束・虐待防止への知識・理解を深め、適切なケアに努める。

【内容】

- 1 ヒヤリ・ハット報告書、事故報告書はフロア単位で共有する。
対応策を実施し、定期的な評価を行い、継続・変更の検討をすることで再発防止を図る。
- 2 入居者の生活パターンを把握し、行動を理解することで事故の予防に繋げていく。
- 3 委員会の開催に合わせ、ユニット内をラウンドし、事故・身体拘束・虐待に繋がる危険性をお互いに確認し、予防策の検討を行う。
- 4 年2回の職員研修を実施し、危険予知、事故防止の意識向上を図る。

□ 苦情解決委員会

【目標】

- 1 入居者や家族、地域の方々とのコミュニケーションを図り、細やかに意見を伺う事により、苦情を未然に防ぐ。
- 2 苦情発生時は、家族や入居者、地域の方々の目線に立ち、速やかに適切な対応が行えるよう努める。

【内容】

- 1 毎月の委員会の開催以外にも、苦情発生時には臨時委員会を開催し早期の対応検討を行う。
- 2 家族・利用者とのコミュニケーションを頻繁に図ると共に、地域の方々との連携の場作るにより、苦情に発展しそうなケースの早期発見に努め、未然に苦情を防げるようにする。

□ 防災対策委員会

【目標】

- 1 避難訓練（年2回以上）を行い、安全でスピーディーな避難を行えるよう、知識の向上に努める。
- 2 地域住民と合同訓練を行い、非常災害発生時の連携作りに務める。
- 3 ハザードマップを活用し発生の危険性が考えられる災害についての知識の向上と訓練を行う。

【年間計画】

実施事項		
	実施計画	備考
4月	自主点検 各ユニット電気器具等	消防計画の点検表使用
5月	普通救急救命講習（新人職員対象）	八木山消防署八木山出張所指導
6月	地震避難訓練 通報訓練	宮城県沖地震想定 緊急連絡網
7月	自主点検 各ユニット電気器具等	消防計画の点検表使用
8月	災害備蓄品の点検	委員会時に実施
9月	災害避難訓練（夜間想定） 消防用設備点検	自主訓練 消防設備業者委託
10月	自主点検 各ユニット電気器具等	消防計画の点検表使用
11月	火災訓練（昼間想定）	自主訓練
12月	火災避難訓練（夜間想定） 通報訓練	自主訓練（総合防災訓練） 緊急連絡網
1月	自主点検 各ユニット電気器具等	消防計画の点検表使用
2月	火災訓練（昼間想定）	自主訓練（地域と合同）
3月	防災計画・マニュアルの見直し 消防用設備点検	年間反省 消防設備業者委託

□ 感染予防対策委員会

【目標】

- 1 感染症の基礎知識の向上を図り、感染症の発生予防・蔓延防止に努める。
- 2 各職員が体調の自己管理を行う事で、感染症の発生予防に努める。

【内容】

- 1 年2回の研修会を開催し、知識の向上を図る。
- 2 利用者の状態の確認・把握を行い、看護師や委員会を中心に適切なケアを行う。
- 3 感染症発症時は、面会者・家族への周知を行い、マスクなどの着用や、感染の危険性が高い場合、面会制限等適切な対応を行う。

□ 給食委員会

【目標】

- 1 誰が盛り付けても美味しそうな盛り付けで適温の食事が提供できる
- 2 ユニットの特性を活かした向山スタイルの給食の提供
- 3 行事食の充実

【内容】

- 1 誰が盛り付けても美味しそうな盛り付けで適温の食事が提供できる
 - ・24時間シートに基づく食事提供時間の調整を行う。
 - ・献立に合わせた食器の選択・提供等が新人職員でも再現しやすい方法を検討する。
- 2 ユニットの特性を活かした向山スタイルの給食の提供
 - ・ユニットで調理し、提供する「ワンデーシェフ」の日を開催する。
 - ・給食当番を日常に落とし込み、食事の役割が利用者の生活の一部となるよう働きかける。
 - ・提供されるのを待つのではなく、皆で協力して食事の時間を楽しむ生活へ移行していく。
- 3 行事食の充実
 - ① 毎月25日の郷土料理提供の継続
 - ② 年間計画に沿って行事食を提供する

月	内 容	月	内 容
4月	お花見弁当	10月	芋煮会
5月	端午の節句	11月	
6月		12月	クリスマスメニュー
7月	七夕	1月	おせち
8月	夏祭り	2月	寿司まつり
9月	敬老会	3月	ひな祭り膳

【年間予定】

残食調査 : 毎月の給食委員会にて残食の報告を行う。

嗜好調査 : 7月、2月にアンケート調査を実施する。

□ もっと生活向上委員会（ユニットケア・排泄・口腔・認知症ケア）

【目標】

入居者一人ひとりの生活にスポットを当て、より豊かな生活の実現を目指す。

【内容】

- 1 排泄ケアに関して、適切な排泄介助の知識・技術の向上に努め、プライバシーに配慮したケアの確認を行っていく。
- 2 口腔ケアに関して、口から食べることの大切さを理解し、日々の状態変化の確認を行うことで、口腔機能を維持できるよう支援していく。

- 3 ユニットケアに関して、入居者一人ひとりが認識しやすい生活環境を整え、住みやすいユニットをつくるよう努めていく。

□ デジタルクリエイション委員会（研修・レクリエーション・広報・ボランティア対応）

【目標】

- 1 施設内の各行事やレクリエーションの充実を図り、季節を感じながら楽しみのある生活環境の提供に努めていく。
- 2 「まほろばだより」を発行により、ご家族や地域の方々への情報発信に努める。入居者への施設行事等の情報発信に努める。
- 3 ボランティアの受入れを積極的に行い、就労支援や地域の方の生きがいをづくりを行う。また、施設内の美化活動を支援する。
- 4 定期的に内部の研修を行い、施設職員の知識・技術の向上に努めていく。また、地域へ専門職種の知識・技術の還元を行い、地域の介護力向上に貢献していく。

【内容】

- 1 委員が中心となり、毎月ユニット単位で行事（イベント）を企画。季節感を感じながら活動を通し、心身の健康の維持を図る。施設全体での行事の企画、運営を行い、入居者、家族、地域住民との交流の場と楽しみを提供する。
- 2 施設の広報として行事（イベント）や日常の様子など、入居者家族及び地域の方々への情報発信として年3回「まほろばだより」を発行する。
- 3 ボランティアの受け入れ、育成を行う。認知症カフェやサロンに出向き、地域との連携を図る。また、地域の方々の憩いの場を提供する。
- 4 毎月の内部研修の計画に基づき研修会を開催し、施設職員の質の底上げを図る。また、年5回地域向けの研修会を開催し、地域の介護力向上を支援すると共に、施設の役割を理解して頂けるよう情報交換・連携を図っていく。

【年間計画】

	実施事項		
	施設内部研修Ⅰ	施設内部研修Ⅱ	地域向け研修
4月	倫理及び法令遵守・プライバシー	新任職員採用研修	
5月	感染予防対策①	普通救命講習	地域連携について①
6月	医療面の基礎知識	苦情対策・接遇	介護予防教室
7月	認知症・精神的ケア	チームケア・他職種連携①	
8月	事故防止対策①	新任職員フォローアップ①	ターミナルケア
9月	食事	褥瘡予防対策	地域連携について②
10月	ユニットケア	環境整備・居室設え	
11月	感染症予防対策②	チームケア・他職種連携②	
12月	身体拘束・虐待防止	事例発表	
1月	排泄ケア	報連相・記録	地域連携について③
2月	事故防止対策②	新任職員フォローアップ②	
3月	口腔ケア	ポジショニング	

□ 褥瘡対策委員会

【目標】

- 1 褥瘡発症者、高リスク者の早期発見と予防に努める。
- 2 体位交換や除圧方法を学び、褥瘡予防に努める。

【内容】

- 1 皮膚状態の異常が見られた際、他職種観での情報共有・対応策の検討を行っていく。
- 2 食事量や体重の変動等を確認し、入居者の状態変化について確認を行っていく。
- 3 ポジショニングや体位交換の研修会を開催し、知識や技術の向上を図る。